



日本の馬事文化・馬術競技の中心地として、  
JRA馬事公苑は新しく生まれ変わりました。

JRA馬事公苑は、1940(昭和15)年の開苑以来、わが国の馬事振興の拠点として認知され、その役割を果たしてまいりましたが、「東京2020オリンピック・パラリンピック大会(馬術競技)」の開催決定を契機として大規模な整備工事に入り、2023(令和5)年11月にリニューアルオープンいたしました。新しく生まれ変わったJRA馬事公苑は、日本の馬事文化・馬術競技の中心地として、これからも皆さまにより親しんでいただける施設を目指してまいります。



# CONCEPT

## 日本の馬事文化発展の中心を担う。

国際大会を含めた様々な競技会を開催する「馬術の殿堂」として。  
また、皆さまへ憩いの場を提供する「馬のいる緑豊かな都市公園」として。  
JRA馬事公苑の意義と役割をご紹介します。

Y.Nakanishi

### 1 「馬術の殿堂」として

1 従来同様、国内における馬事振興・乗馬普及の拠点として、トップレベルの人馬が出場する全日本クラスの大会から、将来の馬術界を担う大学生や高校生の大会まで、様々な馬術競技会やイベントを開催します。

2 JRA主催の競技会・イベントとして、ゴールデン・ウィーク期間中に、国内トップレベルの馬術競技と馬事アトラクションの両方を楽しめる「JRAホースショー」を、秋分の日には、馬を愛する皆さまへの感謝を込めて、伝統馬事芸能をはじめ、様々な馬に関するイベントを行う「愛馬の日」を、また、12月(年度によっては11月)には、近年注目度が高まっている内国産乗用馬・引退競走馬限定の障害馬術大会「JRAジャンプリーディングホースショー」を開催します。

3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を経て、国際的な馬術競技場に生まれ変わったJRA馬事公苑。今後は、そのレガシーを最大限に活かし、国際大会の誘致にも取り組んでいきます。

4 その他、乗馬人口の裾野を広げるため、乗馬スポーツ少年団の活動をはじめ、様々な取り組みを行っていきます。



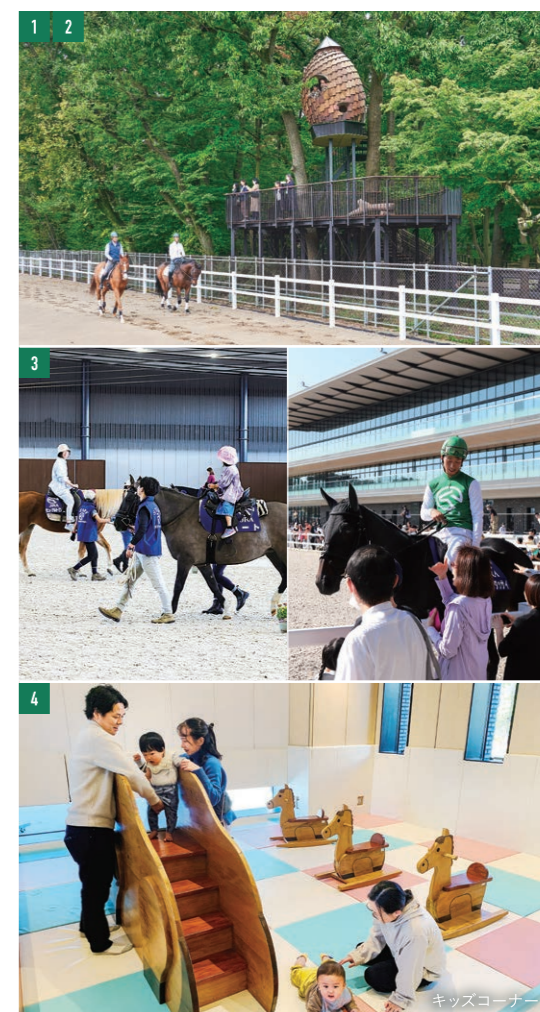
### 2 「馬のいる緑豊かな都市公園」として

1 四季折々の草花が咲き誇る「彩(いろどり)のこみち」や、広大な芝生で思う存分くつろげる「はらっぱ広場」・「ナチュラルアリーナ」、自然のままの原生林を活かした「武蔵野自然林」など、都会の中とは思えないような緑豊かな環境をご提供します。

2 皆さまに安心してご利用いただける憩いの場としてお楽しみいただくとともに、広域避難場所に指定されていることから、地域の防災拠点としての役割も担っていきます。

3 イベント実施日を中心に、お子様や乗馬をされたことがない方向けの体験乗馬をはじめ、高齢者や障がい者の方にも乗馬を楽しんでいただける「ホースセラピー活動」も実施していきます。

4 馬や馬術について書籍や映像で学ぶことができる「ホースギャラリー」、キッズコーナーやカフェスタンド、また、苑内全体を一望できるレストランなど、ご休憩やお食事のスペースも充実しています。



### JRA馬事公苑の主な年間行事

一年を通して各種馬術大会や  
さまざまなイベントを開催しております。

5月

#### JRAホースショー (馬事公苑馬術大会)

毎年5月3～5日に開催するゴールデン・ウィークの恒例行事で、わが国トップレベルの人馬が出場する馬術競技をメインとした大会です。苑内では、ポニーとのふれあいなどもお楽しみいただけます。



9月

#### 愛馬の日

動物愛護週間に合わせて1968年より毎年秋分の日を「愛馬の日」と定め、開催しています。馬を愛する皆さまへの感謝を込めて、全国各地に伝わる馬事芸能などの披露を行います。



11月 または 12月

#### JRAジャンプリーディング ホースショー

通称「ジャバプリ」は2009年から始まった内国産乗用馬・引退競走馬限定の障害馬術大会です。2017年からは「Japan Racing Cup」をメイン競技として創設し、注目度が高まっています。





# HISTORY

## 馬術の殿堂として歩んだ歴史。

1940年の開苑以来、二度にわたるオリンピック開催や、これまで四度にわたり天皇后両陛下の行幸啓を賜るなど、馬術の殿堂として歩んできたJRA馬事公苑の歴史をご紹介します。



Y.Nakanishi

1934	帝国競馬協会臨時総会で玉川村用賀に馬の競技場建設用地5万坪の買収を決議
1936	第12回オリンピック大会の東京開催が決定。既存用地に隣接した1万5千坪を追加購入。12月には改正競馬法により、帝国競馬協会と全国にあった11競馬倶楽部が日本競馬会に統合
1938	第12回オリンピック東京大会の返上を決定
1939.3	馬事公苑の建設に着工
1940.9	<b>馬事公苑開苑</b>  開苑当時の正門
1944.4	馬事公苑は「修練場」と改称される  当時の騎乗訓練風景
1948.7	日本競馬会解散、国営競馬開始。「修練場」は「農林省畜産局競馬部東京競馬事務所」に改称
1954.9	<b>日本中央競馬会発足</b> 。馬事公苑の名称復活
1959.5	ドイツ・ミュンヘンで開かれたIOC総会において、ローマの次のオリンピック開催地が東京と決定。馬場馬術競技が馬事公苑で行われることが決定
1963.2	第18回オリンピック東京大会馬術競技のための施設整備に着工

1964.3	施設整備工事竣工
1964.10	<b>第18回東京オリンピック大会グランプリ大賞典馬場馬術競技を開催</b>  左/東京オリンピック馬場馬術団体表彰式 右/馬場馬術競技場
1979.4	千葉県白井町(現白井市)に分苑を開設。競馬騎手養成業務の一部を移管  白井分苑(現:競馬学校)
1982.3	白井分苑を「競馬学校」に改組、競馬騎手養成業務のすべてを移管
1991.11	馬事文化事業の一環として、オーストリア・ウィーンのスペイン乗馬学校を招聘、覆馬場で来日公演。天皇后両陛下の行幸啓を賜る
1998.10	フランス国立馬術学校によるカドルノワール・ド・ソミュール日本公演を開催。天皇后両陛下の行幸啓を賜る  K.Yamamoto カドルノワール・ド・ソミュール日本公演

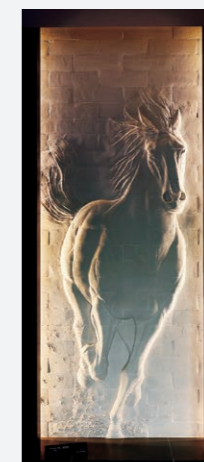
1999.9	愛馬の日を「天陛下御在位10年慶祝第31回愛馬の日」として開催。天皇后両陛下の行幸啓を賜る
2009.9	愛馬の日を「天陛下御在位20年慶祝第41回愛馬の日」として開催。天皇后両陛下の行幸啓を賜る
2015.2	ブラジル・リオデジャネイロで開催されたIOC理事会において、東京2020大会馬術競技(クロスカントリーを除く)の馬事公苑での開催が承認
2016.12	東京2020大会の会場として施設整備工事(1期工事)を行うため、一時休苑
2017.1	事業所機能を栃木県宇都宮市に移転、「JRA馬事公苑宇都宮事業所」としてオープン
2020.3	新型コロナウイルスの影響により、東京2020大会の1年延期が決定

2021.7	<b>東京2020オリンピック競技大会馬場馬術・障害馬術・総合馬術(馬場および障害)およびパラリンピック競技大会馬場馬術競技を開催</b>  東京2020オリンピック・パラリンピック開催時のメインアリーナ
2023.11	東京2020大会後の施設整備工事(2期工事)を経て、馬事公苑再開苑  リニューアルオープン記念イベントを開催

## COLUMN

### 日本の馬術界で唯一の オリンピック金メダル

1932年ロサンゼルスオリンピックの馬術大障害飛越競技で優勝したウラヌス号と、「パロン西」の愛称で親しまれた西竹一選手。日本の馬術界における唯一のオリンピック金メダリストとして、歴史にその名を刻んでいます。西選手は1945年硫黄島で戦死してしましますが、その最期までウラヌス号の写真とたてがみを肌身離さず身につけていたと伝えられています。ウラヌス号が余生を過ごしたのが馬事公苑。2023年にリニューアルオープンした馬事公苑の貴賓エントランスの壁には、ウラヌス号の煉瓦装飾が施されています。この作品は、西選手とウラヌス号に敬意を表し、西選手が最期を遂げた場所である硫黄島の石と、ウラヌス号の終焉の地である馬事公苑の土を混入した粘土で煉瓦を製作し、焼き上げたものとなっています。



作品はウラヌス号の実物大(体高181cm)

### 幻の1940オリンピック

1940年に開催することが決まっていた東京オリンピックは、戦争などの影響を受けて1938年に開催を取りやめることとなりました。くしくもオリンピックが予定されていた1940年に、日本初の総合的な馬事施設として開苑したのが馬事公苑です。1940年のオリンピックは幻に終わってしまいましたが、1964年の東京オリンピック、そして東京2020オリンピック・パラリンピックと二度にわたって、馬事公苑は世界最高峰の戦いが繰り上げられる舞台となりました。